



第 1 日

社 会

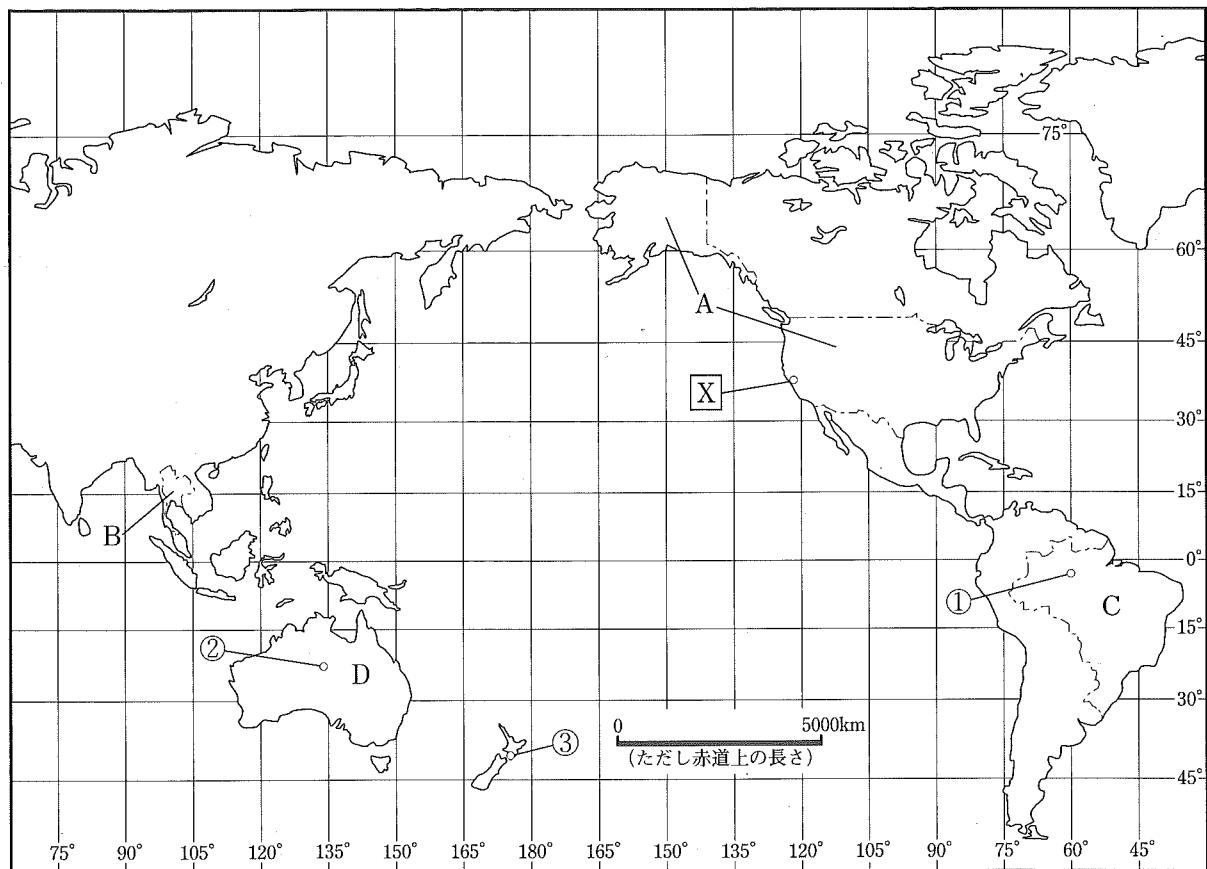
(10:40 ~ 11:30)

注 意

- 1 検査開始のチャイムがなるまで開いてはいけません。
- 2 問題用紙は表紙を入れて7ページあり、問題は①から④まであります。これとは別に解答用紙が1枚あります。
- 3 問題用紙と解答用紙に受検番号を書きなさい。
- 4 答えはすべて解答用紙に記入しなさい。

受検番号	第 番
------	-----

1 次の地図を見て、あとの1~5に答えなさい。



1 日本列島は、火山活動が活発で地震が多い地域であり、南北アメリカ大陸の西岸の山脈と同じ造山帯に属しています。この造山帯を何といいますか。その名称を書きなさい。

2 地図中の都市 **X** では、西経120度の経線上での時刻が標準時として使われています。東京が1月1日の午後3時のとき、都市 **X** は何月何日の何時ですか。次のア～エのうちから選び、その記号を書きなさい。

ア 12月31日 午前8時

イ 12月31日 午後10時

ウ 1月1日 午前8時

エ 1月1日 午後10時

3 右の表中のア～エの国は、地図中のA～Dのいずれかの国と一致します。

ア～エのうち、Cの国にあたるものはどれですか。その記号を書きなさい。

国	人口密度 (人/km ²)	高齢者の割合 (%)	キリスト教徒 の割合 (%)
ア	22	5.8	89.0
イ	3	13.0	67.3
ウ	126	6.8	0.7
エ	31	12.4	76.7

(世界国勢団会 2007/08年版、データブック オブ・ザ・ワールド 2007年版による。)

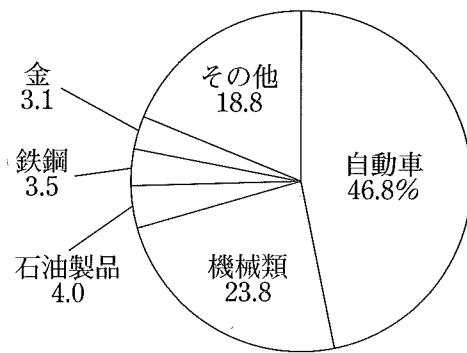
- 4 右の表中のア～エの都市は、東京と地図中の①～③のいずれかの都市と一致します。ア～エのうち、③の都市にあたるものはどれですか。その記号を書きなさい。

都市	1月の平均気温(℃)	7月の平均気温(℃)	年間降水量(mm)
ア	16.6	8.8	1256.0
イ	26.2	26.6	2325.0
ウ	5.8	25.4	1466.7
エ	28.9	11.9	319.6

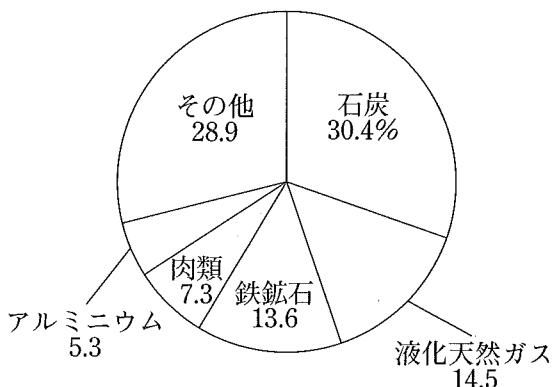
(理科年表 平成20年による。)

- 5 次のグラフⅠ・Ⅱは、地図中のDの国に対する日本の貿易について、輸出・輸入別に品目と金額の割合を示しています。グラフⅠ・Ⅱが示しているDの国に対する日本の貿易にはどのような特色がありますか。グラフⅠ・Ⅱをもとに、簡潔に書きなさい。

グラフⅠ
Dの国への輸出



グラフⅡ
Dの国からの輸入



(日本国勢団会 2007/08年版による。)

② 次のA～Eは、それぞれ日本とアジアの国々にかかわるできごとについて述べた文です。これを読んで、下の1～6に答えなさい。

- A 足利義満は倭寇の取りしまりの求めに応じ、勘合を用いた貿易を始めた。
- B 朝廷は百済を助けるために大軍を送ったが、唐・新羅の連合軍に敗れた。
- C 日中共同声明が発表され、日本と中国との国交が正常化された。
- D 德川家康は大名や商人の船に朱印状をあたえ、東南アジア各地に日本町がつくられた。
- E 下関条約が結ばれ、清は朝鮮の独立を認め、日本に巨額の賠償金を支払った。

1 Aに関して、勘合を用いた貿易の相手となった中国の王朝を何といいますか。その名称を書きなさい。

2 Bのころ、皇位をめぐって戦いがおこりました。この戦いに勝ち、即位した人物はだれですか。
次のア～エのうちから選び、その記号を書きなさい。

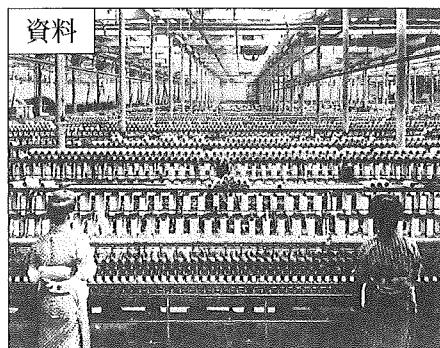
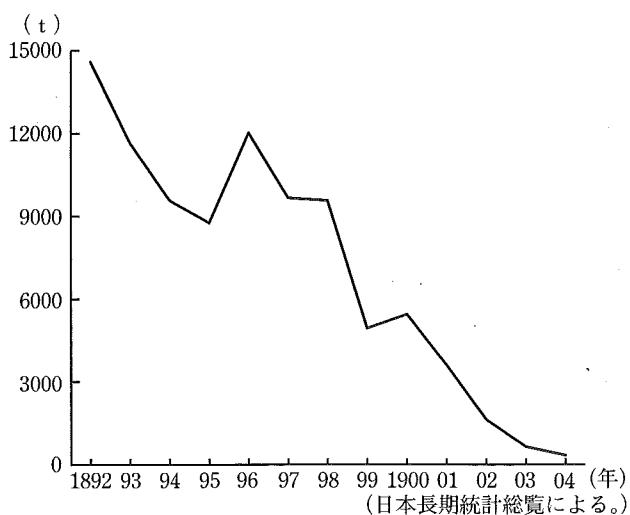
ア 天智天皇 イ 桓武天皇 ウ 推古天皇 エ 天武天皇

3 Cに関して、この声明を受けて、日本と中国が結んだ条約を何といいますか。その名称を書きなさい。

4 次のア～エのうち、Dのころの文化について述べたものはどれですか。その記号を書きなさい。

ア 禅宗が宋から伝えられた。 イ 銅鐸が祭りに使われはじめた。
ウ 阿国の歌舞伎が広がりはじめた。 エ 野口英世が伝染病を研究した。

5 次のグラフはEのころの日本の綿糸輸入量を示し、資料は当時の紡績会社の様子を示しています。グラフに示されている期間において、日本の綿糸輸入量が大きく変化しているのはなぜだと考えられますか。その理由を、資料をもとに、簡潔に書きなさい。

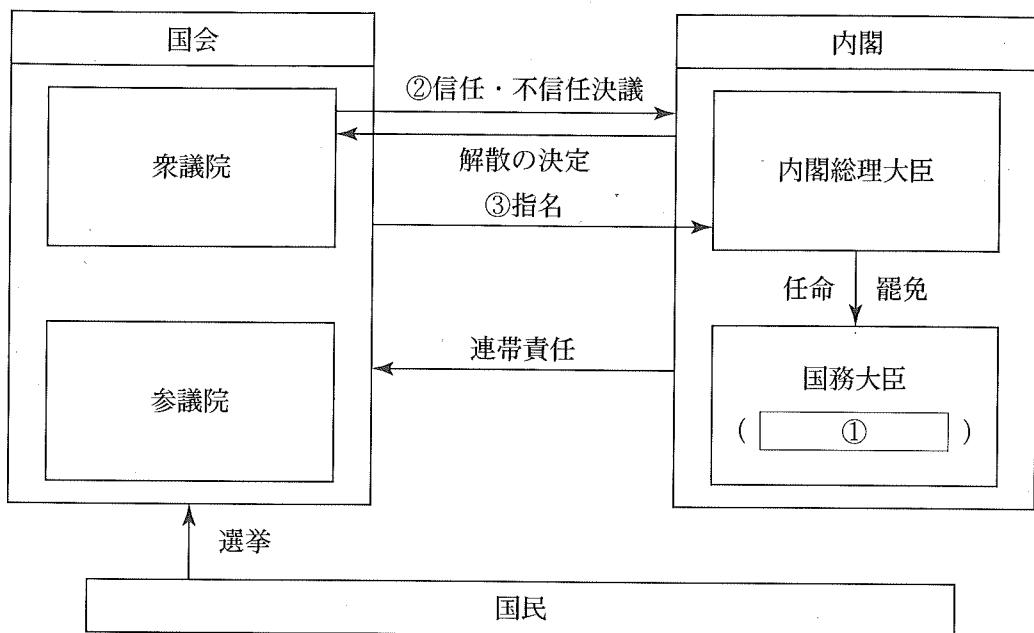


6 A～Dのできごとを、年代の古い順に並べ、その記号を書きなさい。

③ 次の1・2に答えなさい。

1 次の図を見て、下の(1)～(3)に答えなさい。

日本の議院内閣制のしくみの一部



(1) 図中の ① には、国務大臣の構成に関する内容が入ります。 ①

にあてはまるものを、次のア～エのうちから選び、その記号を書きなさい。

- ア 国會議員の中から3分の2以上を選出する。
- イ 衆議院議員の中から3分の2以上を選出する。
- ウ 国會議員の中から過半数を選出する。
- エ 衆議院議員の中から過半数を選出する。

(2) 図中の ② に関して、衆議院で内閣不信任の決議案が可決されると、内閣は、10日以内に衆議院を解散するか、総辞職しなければなりません。衆議院が解散され、総選挙が行われた日から30日以内に開かれる国会を何といいますか。その名称を書きなさい。

(3) 図中の ③ に関して、衆議院と参議院の議決が異なり、両院協議会を開いても意見が一致しない場合、どのように決めますか。次のア～エのうちから選び、その記号を書きなさい。

- ア 衆議院の議決を国会の議決とする。
- イ 参議院の議決を国会の議決とする。
- ウ 国民投票を行って決定する。
- エ 閣議を開いて決定する。

2 市場経済に関して、次の(1)～(3)に答えなさい。

(1) 市場経済では、おもに企業が生産活動をになっています。次の文章は、株式会社について述べたものです。文中の [a] と [b] にあてはまる語はそれぞれ何ですか。下のア～エの組み合わせのうちから選び、その記号を書きなさい。

株式会社は、株式を発行して [a] を集める。また、株式を購入した人は、[b] に出席し、会社の経営方針などの決定にかかわることができる。

ア [a 資金 b 取締役会] イ [a 資金 b 株主総会] ウ [a 利潤 b 取締役会] エ [a 利潤 b 株主総会]

(2) 市場経済のもとで、企業の公正で自由な競争をうながし消費者の利益を守ることなどを目的として、1947年（昭和22年）に独占禁止法が制定されました。この法律にもとづいて企業を監視する機関を何といいますか。その名称を書きなさい。

(3) 右の表は、ある旅館の大人1人分の宿泊料金を示しています。右の表のように曜日等によって宿泊料金が異なるのはなぜだと考えられますか。その理由を、「宿泊希望者数」の語を用いて、簡潔に書きなさい。

曜日等	宿泊料金（1泊2食付き）
日～金曜日	13,800円
土曜日	15,900円
祝日の前日	15,900円

4 次の資料は、外務省が文化交流の理念について述べた文章です。これを読んで、以下の1～5に答えなさい。

資料

文化は、政治、経済と並ぶわが国外交の重要な分野であり、その果たす役割は近年ますます大きくなっています。

①互いに異なる背景を持つ人々や文化の間の交流から生まれる相互理解は、②国と国、人と人との信頼関係を育て友好関係を発達させていく上で、不可欠の要素です。また、③様々な側面を持つ日本の姿を世界の人々に十分に理解してもらうことは、グローバル化した世界の中において我々④日本人が国境を越えた活動を行い、世界の人々との交流をスムーズに進めていく上で、非常に重要といえます。

政府は、このような視点から、⑤文化の分野での交流や協力を多岐にわたり展開するとともに、民間団体の国際交流活動を積極的に支援しています。

(外務省ホームページによる。)

1 下線部 ① に関して、世界には気候に応じたさまざまな伝統的な住居がみられます。右のグラフは、ある都市の月平均気温と月降水量を示しています。次の（ア）～（エ）のうち、右のグラフが示している気候に応じた住居として適切なものはどれですか。その記号を書きなさい。

- (ア) テント式の住居
- (イ) 高床式の住居
- (ウ) 日干しれんがでつくった住居
- (エ) 氷を積み上げてつくった住居

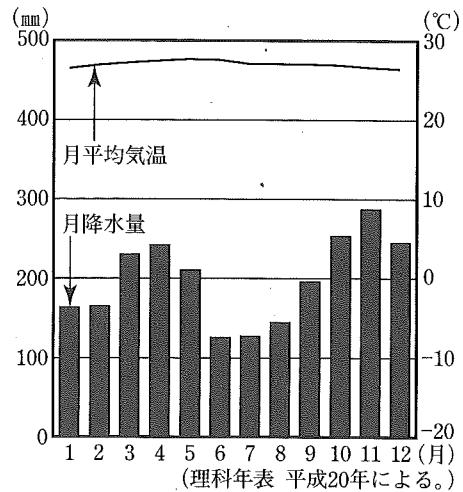
2 下線部 ② に関して、ヨーロッパでは、ヨーロッパ連合（E U）という組織がつくられ、文化、政治や経済の面で結びつきが強められています。この組織が発行している通貨を何といいますか。その名称を書きなさい。

3 下線部 ③ に関して、浮世絵が19世紀後半のヨーロッパの画家に影響をあたえました。次のア～エの人物のうち、すぐれた浮世絵の風景画をかいだのはだれですか。その記号を書きなさい。

ア 黒田清輝 イ 雪舟 ウ 狩野永徳 エ 歌川広重

4 下線部 ④ に関して、現在、約2500人の日本人が青年海外協力隊員として発展途上国に派遣され、技術協力をっています。政府によって行われる発展途上国への技術協力や資金協力などを何といいますか。その名称を書きなさい。

5 下線部 ⑤ に関して、多くの外国人旅行者が日本を訪れています。右のグラフは日本を訪れた外国人旅行者数の推移を示し、下の資料は国内のある駅の構内でみられた案内板を示しています。グラフが示している外国人旅行者数の変化に対応するためには、この案内板にどのような工夫をすればよいと考えられますか。グラフをもとに、簡潔に書きなさい。



日本を訪れた外国人旅行者数の推移
(平成18年における上位3か国)

